

たばこのポイ捨てによる火災を防止しよう

春を迎え、行楽シーズンが到来すると、キャンプやレクリエーションで山に入る機会が増えます。この時期は降水量が少なく、空気が乾燥し、強風が吹くなど、ちょっとしたことで山火事が発生しやすくなります。

近年は、喫煙マナーなどについて喫煙場所指定・ポイ捨て禁止など厳しい規制がされていますが、いまだ喫煙のマナーが守られていないのが実情です。「たばこのポイ捨てくらいで火災なんて」と安易に考えてしまいますが、実はポイ捨てされたたばこの温度は700度にまで達することがあり、火災の原因になります。

あなたの無責任なポイ捨てが、他人の生命・財産を奪うこととなります。一人ひとりが投げ捨てをしないきれいな街づくりをすれば、火災は自然と減っていきます。



消防本部予防課
(☎83-3556)

春の行楽期を 火災のない楽しいものにするために

- たばこは灰皿のあるところで吸うか、携帯灰皿を携行し、吸殻を必ず消して持ち帰ってください。
- 車からのポイ捨てをよく見かけますが、環境にも良くありません。投げ捨てなどは絶対にしないで、吸殻はちゃんと灰皿の中に入れてください。



ひとひと 女と男の21世紀

仕事と生活の調和を目指して

国は、今年を「仕事と生活の調和元年」と位置づけ、老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発等、様々な活動を自らの希望に沿って展開できる社会の実現を目指して、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進に取り組んでいます。

男女共同参画白書(平成19年版)によると、仕事と育児の両立支援の導入や個人のワーク・ライフ・バランスの実現は、労働者の仕事への意欲も高まる傾向にあり、良い影響をもたらすと報告されています。

実際に1年間の育児休業を取得した男性は「経済的支援も大切だが、働き方・働かせ方の変革が重要だ」と話されました。また、育休体験が仕事にもたらしたメリットとして、仕事の能率の向上、部下に対する心の余裕(管理能力の向上)等を挙げられました。

国は、平成26年度までに男性の育児休業取得率を10%にする目標を立てています。しかし、現実の取得率は0.5%と、目標には程遠いのが実情です。今後この数値を目標値に近づけるためには、育児期の男性の働き方の見直しや固定的な性別役割分担意識の見直しを進めることが重要です。

個人、企業、社会全体がいろいろな方向からワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を推進することによって、誰もが希望や事情に応じた多様な生き方を選択でき、自らの人生を豊かなものとする事ができるのではないのでしょうか。 **市民活動推進課 (☎ 82-1134)**



10 住民自治

地方自治は憲法で保障され、地方自治法によって直接および間接の住民参加を規定しています。また、地域の住民とその代表者で政治や行政を自主的に処理することから、地方自治のことを「民主主義の学校」と呼ぶことがあります。

しかし、ここ最近では、間接的な住民参加の機会である選挙での投票率の低下とともに、要件が厳格なため直接請求の制度もあまり利用されていないなど、市民の市政への参加が必ずしも十分ではないとの批判を受けることがあります。さらに、市民の意見が行政や議会の取組みにどのように反映・関係しているのか分かりづらく、その関わりが希薄に感じられ、ますます市政への参加を消極的にするという悪循環に陥っているのかもしれない。

一方4月1日号で紹介した「団体自治」は、地方分権型社会への時流によって様々な法制が整備され、大きく前進しています。憲法にいう“地方自治の本旨”とは団体自治と住民自治であると説明されてきました。今一度「住民自治」のあり方を考え、市民の意見を市政に反映させる、市民が市政に積極的に参加できる、具体的な仕組みを構築していくことが今後の課題です。

秘書行革課 (☎ 82-1135)